

ネパール・ミカの会

会報 No. 3

1998年1月1日

連絡先：〒194-02 東京都町田市常盤町3196 世羅美庵内

Phone: 0427-98-0046

公頁 春

平成10年1月1日

～ 第二次ネパール教育援助に向かって ～

斎藤 謙也

平成10年を迎え、ネパール・ミカの会に御協力いただいている皆様、新年のおよろこびを申し上げます。

昨年、ミカの会がお祝迎機のお生まれになられたルンビニでマホマディア小学校屋根修復工事を無事完成できたときは、本当にうれしく思いました。その余勢を駆って、ミカの会の正式発足、ヌルブ・ラマ君の来日実現、さらに平成10年3月の第二次ネパールの旅に向けての資金集め、会員の皆様の熱意に支えられて、当会は歩み始めました。

昨春の屋根修復には、寄せられた三十数万円の義捐金に、感激致しましたが、さらに教育援助に花を咲かせるべく、会の正式発足の際、100万円を目標にすること、できれば2教室と職員室位の新築工事をすることを決定しました。その時は、第一回に比較して目標が高いのではないかという意見もありました。しかし、少しずつ呼びかけの範囲を広げれば、実施可能と判断し、バザーの開催、各方面への寄付の依頼となりました。

おかげさまで、年末には、目標額を達成して、すがすがしい気持ちで新年を迎えました。

当会は、「手から手へ」直接の援助を掲げています。この各方面の方々からの御協力、会員の熱心な活動によって得られた義捐金を持って、ルンビニのシリ・マズワニ小学校へ届けたいと思います。昨春は、回教徒の学校でしたが、本年は、村立(公立)のヒンズー教徒中心の小学校です。380名余りの「ひとみ」の輝きに接せられる喜びで、いまからワクワクしています。

一緒に着工式に参加できる方は、早めにお申し出ください。カトマンズ直航のロイヤル・ネパール航空の席は、20名分申し込んであります。今回の旅では、援助申し出のある山岳都市チトワンの3小学校の調査及び尾根緑道桜祭り参加のための準備(ネパール物品の購入)も考慮に入れています。

会員数も増え、毎月の例会にも都合をつけてご参加くださる方が多く、そのパワーに役員も圧倒されつつ、会の成長を喜んでいます。その活動によって得られる充実感や成就感。それがネパールの子供たちの目から与えられていることを実感しながら、喜びを持って援助できるように、平成10年も歩みたいと思っています。人との出会いを幸せと感ずる活動を、さらに進められればと念願しています。

本年もよろしくお願ひします。健康には十分ご留意ください。

ネパール小学校援助バザーが昨年十二月、行われました。ネパールの貧しい子どもたちに少しでも何かできないかということ、ミカの会はできました。昨年三十万円の援助で、マホマディア小学校の子供たちの喜ぶ姿が、ミカの会へと発展したようです。ネパールに興味のある人、少しでも他の人の役に立ちたいと思う善良な人、ミカの会は大きく広がりました。ミカの会としての最初のバザーは大いに盛り上がりました。多くの商品を寄付してくれる人、労をいとわず、毎日会場につめてくれる人、多くの人の協力でバザーの成果も、予想以上だったようです。多くの人の善意で成果はあがりましたが、我々ボランティア活動をやる側にとって常に考えなければいけないことは、多くの人の善意が有効に使われなければいけないということです。ミカの会によりよい活動のために常に気をつけなければならぬことと思っています。



「チャリティー展をおえて」

町田、高原書店さんの一角を借り、12月18日～24日迄、ネパール小学校建設支援のチャリティーバザーが、行われました。

計画段階から、どの様にしたら良いか何もわからず始めたので、前日高原さんにいろいろ道具を借用したり、準備を進めました。

初日当日、10時開店前に会場に行ったら、もうお客様が、三人、品定めをしているではありませんか。あわてて、開店作業を行いました。

取り置きして、買おうと思っていた希望商品は、さっさと買い求められてしまい、人生経験の人は、「さすが」と感じました。

12月21日、23日は、会員で画家の秦さんの協力で似顔絵イベントが開催されました。A(きれい) B(そのまま) C(ユニーク)等、ランクがあったのですが、A'やD、Eランク希望の方、又一枚にA、B、C、を書いてもらう方等、秦さんも苦しめたのでは・・・ 24日、予定枚数は、とても良い企画だったので盛況のうちに終了、秦さん御苦勞様でした・・・

又、ショッパーや、武相新聞を見て、他市の人 came たり、出張に来ている関西人で、親族がネパールで亡くなられた方がいるので基金してくれたり、会員の方々に、連日会場に来て頂きバザー用品を買い求め頂いたり、仲間内の協力の元に終了した感じもしますが、まあ、なんとか終わり、安心しました。

次回、開催する時は、宣伝を考えた方が良いのでは・・・

POPビルの外に、ポスターを貼ったり、1画に立券をしたり、又、郵便局、銀行にポスターを貼ったり、チラシを配ったり等・・・ 「ネパール・ミカの会」を広める上でも、良いのではないかと思います。 バザー実行委員会 (中野)

チャリティバザーのご報告

先月のチャリティバザーは、会員の皆様の方で予想を上回る盛況に終わり、約275千円の収益をあげることができました。お忙しい中ご協力くださいました多くの皆様に感謝いたします。

総売上 124,900円

支出

チャリティバザーへ支払い(7掛)	99,460円
パン屋さんへ支払い(8掛)	14,160円
大賀蕪織館へカレンジャー代金	8,000円 (2000円寄付)
絵はがき(ヒマラヤ)代金	10,000円
パウンドケーキ材料費等	17,815円

合計 149,735円

純益 275,225円

② 会員以外で、バザーの品物をご寄付くださった方のお名前

富田敏子様 茂木豊子様 伊藤敏子様 山本史子様 柏木三夫様 川口敏夫様
長谷川トシ子様 和田八重子様 梅崎蘭子様 小岩ユキエ様 斎藤ミヨ子様
福田相子様 藤野隆子様 長野様 高橋様

ご協力ありがとうございました。

また、長期間、会場を提供してくださいました高原書店様ありがとうございました。

援助金をご寄付くださった方のお名前 (平成9年11月～12月)

〔会員外〕 あけぼの(菓子店)様 国際ソロプチニスト町田さつき様
町田教育者を偲ぶ会様 リコー山の会様 町田自然幼稚園様
栗田寺様募金 高原書店様募金 市川水道店様 若そま実行委員会様
観泉寺様 大泉寺様 福昌寺様 妙全院様 東雲寺様 祥雲寺様
平山善尋様 鈴木美佐子様 平田誠様 鈴木弥生様 永井哲志様

〔会員〕 片岡流 大谷安宏 今村旭 築城美津子 森本ヒロ 小田楓玲子
敬称略 井上恭 石原美恵子 鈴木修子 佐藤文則 鈴木紀子 小林克夫
八木岡亮 和田奏子 斎藤美江子 斎藤謙也

寄付金合計 635,721円 ありがとうございました。

<報告>

ミカの会 会計残高 1,174,558円 (9.12.31現在)

<新会員紹介>

	住所	Tel
鈴木 紀子さん	町田市南大谷 509-3	0427-27-1055
八木岡 亮さん	相模原市宮下木町 1-2-19-205	0427-58-1095
米山 方雄さん	町田市上小山田町 2536	0427-97-3067
柏木 三夫さん	〃 小山町 3542	0427-73-7660
山内 劉子さん	〃 真光寺町 798-15	0427-35-9837

第2回 ネパール小学校支援旅行

日数	月日	曜日	都市名	時間	交通機関	摘要
1日目	3/4	水	大阪空港発 カトマンズ着	12:40 18:45	RA411	着後ホテル
2日目	3/5	木	カトマンズ発 チトワン着	13:30 14:12	RA (国内線)	カトマンズ旧王宮見物 着後ジャングル散策
3日目	3/6	金	チトワン発 ルンビニ着	09:00 12:30	バス	マホマディア小学校訪問 ルンビニ公園参拝後ホテル
4日目	3/7	土	ルンビニ発 タンセン着	12:00 17:00	バス	シリ・マズワニ小学校贈呈式 着後ホテル
5日目	3/8	日	タンセン			タンセン 小学校調査
6日目	3/9	月	タンセン発 ポカラ着	08:00 13:00	バス	着後ホテル ポカラ見物
7日目	3/10	火	ポカラ発 カトマンズ着 空港着	11:00 12:00 21:30	RA (国内線) バス	サランコート見物 ホテル 市内観光・カトマンズ空港へ
8日目	3/11	水	カトマンズ発 大阪関空着	00:05 11:00	RA412	

*費用は19万円を予定しておりますが、東京・大阪間の旅費と現地、昼食・飲み物代・空港使用料は別途必要です。(町田市国際交流基金からの補助金は含まれていません)

*3月11日以後も滞在をご希望の方の費用は、現地スタッフのヌルプ・ラマ君と相談いたします。

*旅行に参加御希望の方は1月20日まで、事務局に御連絡ください。

(定員は15名を予定しております)

ホテル案内

カトマンズのホテル—VAISALI HOTEL
THAMEL, KATHMANDU

タンセンのホテル—SRINAGAR HOTEL
SRINAGAR, TANSEN

チトワンのホテル—TEMPLE TIGER
TADI, CHITWAN

ポカラのホテル—LAKESIDE HOTEL
LAKESIDE, POKARA

ルンビニのホテル—HOKKE HOTEL
LUMBINE, BHAIRABA

現地事情によりご宿泊先が変更になる場合がございます。

ご出発のご案内

集合日時—1998年3月4日（水曜日）

集合場所—大阪関西空港

出発便—ロイヤルネパール国際航空（RA411便）

出発日時—1998年3月4日（12時40分）大阪関空発

到着日時—1998年3月4日（6時45分）カトマンズ国際空港着

帰国便のご案内

帰国便—ロイヤルネパール国際航空（RA412便）

出発日時—1998年3月11日（00時05分）カトマンズ国際空港発

到着日時—1998年3月11日（11時00分）大阪関空着

タンセン小学校



ネパール訪問雑感

加藤誠一

昨年のネパール旅行後ネパールに対する印象は大きく変わりました。

人間と自然の対峙、調和を深く考えさせられました。本当の豊かさとは何だろう。

タンセンの町並みはなぜか心地よい。霊峰マチュピチュレのご来光は感動的で心を打ちます。

ヒマラヤの美しい自然の懐カトマンズは現在世界でも最悪の大気汚染に悩まされ教育、医療と将来を担う子供たちの環境も劣悪と言えます。必ずしも物質的な充実で解決するものではありませんが、最低限の援助が必要とされています。

ミカの会は教育環境の向上の為に微力ながら援助をしています。賛同していただいた仲間が増えていることに感謝しています。

本年は多くの方がネパールを訪問されると聞いております。初めての方もいらっしゃると思いますが、気温の変化と水に注意されれば快適に旅行を続けることができると思います。ホテル、トイレなどはまずまず？何とかなるでしょう。食事は？何とかなるでしょう。とてもおいしいホットミルクティをたくさん飲みましょう。そうです、間違ってもアイスコーヒーなど氷を使用するものは厳禁です。ネパールの人と同化する気持ちが大切です。

とても星が美しいので星座を勉強していくと鼻が高いかもしれません。去年は説明できる人がなくて少し残念でした。流れ星みてるだけでも願い事がいっぱいできます。

写真、ビデオをお持ちの方はフィルムと電池を余分に用意してください。すばらしい自然と、歴史的建造物、素朴な子供たちと被写体は豊富です。

私たちは金銭的な援助に留まることなく現地に行きネパールの文化、子供たちの表情に触れ理解を深めていきたいと考えています。そしてそれぞれの方が民間外交の模範となる行動を期待いたします。

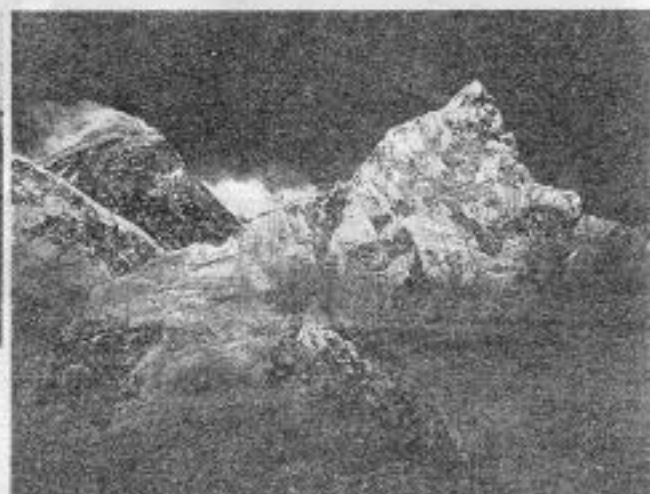
初めての写真展『ヒマラヤ』

珍しく東京に大雪が降って今朝の町田はいつもと違った表情で私を迎えてくれました。弟の写真展も今日で7日目。ちょうど4年前に、弟がすごく好きだった剣岳、チンネの水壁で命を落としてから、ずっと「いつかは写真展を」と思っていました。それがこんなに早く実現できたのはミカの会との出会いがあったからでした。ミカの会の方々に背中をポンと押されるように、とんとん話が進み、初めて弟のヒマラヤが大きく引き伸ばされて高原書店のギャラリーを飾っています。毎日、毎日、思いがけないほど、大勢の方々が訪れて下さいます、「吸い込まれそうな感動を覚えます」と書いて下さる方。「見ていると何故か、なつかしくて心がいやされるのです。」と言って下さる方。その一言一言を弟に聞かせてあげたかったと思います。

写真展を開くエネルギーを私に与えて下さり、見に来て励ましの言葉をかけて下さるミカの会の方々、快く場所を提供して下さいました高原書店様に、心から感謝しております。

1月9日 写真展会場にて

和田 泰子



ワンワールド・フェスタに参加して

佐藤 文則

11/15&16の両日、坂さんから誘われて東久留米で行われた国際NGOの祭り「ワンワールド・フェスタ」に行ってきた。音頭を取った白石さん夫妻をはじめ各NGOの方々は、精力的で皆一生懸命であった。

展示にカラー写真や現地の民芸品を飾って工夫を凝らし、アジア、アフリカの手工芸品を並べた出店や、支援国の食物、飲み物を販売する屋台、チャリティバザール、NGOのバンドによるコンサート、さらにはシンポジウムなどと大がかりな運営で、裏方さんは大変な苦勞だったと思う。

わがネパール・ミカの会は、屋内広場正面の一等地をあてがわれたが、テーブルひとつに展示物1面で、ひっそりとした趣で存在していた。これは仕方がない、会が難から成島に育つ途中だもの。どこかのNGOのように会員百名近く、年会費1万円とかで、すばらしい会報を出している連中にかなうわけない。でも会員間の連絡用の会報にあれほど金をかける必要があるのかな。そういう金を低めに抑えて、支援に当てるという発想はないものか。ともかく当方も来年は、ネパールの手工芸品や食品、その他諸々を持ち込んで、ネパールやらミカの会やらをもっとアピールしたいものだ。

参加したNGO約20団体は、インド、カンボジア、バングラディッシュ、フィリピン、それにアフリカなどを支援していて、ネパールに関わっている団体はミカの会だけだったのが意外であった。

皆一生懸命取り組んでいることを強く感じたが、その割には2日間とも、田舎の祭りでももつと賑やかだぞと言いたくなるほど人出が少なかった。町田と東久留米との人口の差なのか。観衆が少ないので、コンサートの座席を埋めることに協力して、わが年老いたハートが何の反応もしないバンドを、夕方まで長時間聴き続けた。

熱意をもって努力しているから何とかなるはずと思っても、世間の連中がこちらの思い通りになるものでもない—ということを、勉強させてもらった2日間でもあった。そして

正義とは無力をかざる言葉にて

ただ美しく人をあざむく (松村英一)

という歌があったな、と思った。

一生懸命さが空回りしているような気がしたことが、もうひとつあった。あるNGOの出店で、手工芸品をたくさん並べてあったが、それほど売れていない様子だった。

私が「日本人が欲しいような色やデザインのことを、先方にこちらから指定して作らせたほうがいいんじゃないの？」と問いかけたら、売子子の若い娘さんから「それでは向こうの民族性を殺してしまうんです」と言い返された。

民族性やその国の遺産を保存してあげるつもりで文化財保護団体ならそれでもいいのだが、どうしてもたくさん売って、作っている現地の人たちに売り上げ金を送ってあげたい、という気持ちがありありのカラーの美麗な通販カタログを配っている団体が、そういう考えているのかな。何か「熱い思い」と「相手のメリット」との間に、ギャップがあるように感じた。

よせばいいのに、また別のNGOの店でも、私の考えを言ってみた。

フィリピンのピナトウボの噴火による被害者を救援している団体だった。東京ドームの700倍の火山灰が降ったとかで、その火山灰を加工したブローチや飾り物を販売していた。それもいいが、日本で売らるならブロック、レンガ、路面タイル、化粧タイルなどの建築資材を作らせたらかどうか、と提案した。

売子のお婆さんが「そうね、それはいいかも。責任者に相談してみます」と言って呉れた。それにしてもピナトウボの火山灰は、海の砂のようにさらさらしてとてもきれいだった。きれいな姿かたちで、人に災いをおよぼすとは、何ということか。

女性もきれいな方は、人の心を惑わし、ときには他人の家庭を破壊し、まれには命まで奪うことがある。脱線しちゃったね。終わりにしようか。

大相撲で言えば三役クラスと対面したわがミカの会は、まだ幕下、序の口あたりかも知れないが、私たちは自分達の支援を地道に続けていけばいい。

私はミカのモットーである「無理なく、ささやかに、誠意をこめて、楽しく」というのが好きだ。性に合ってる。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆ 夢の下書 ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
☆☆ “黒猫でも白猫でもネズミをとる猫はいい猫だ”といった中国の政治家が
☆☆ いました。
☆☆ ドロボウではこまりますが、職業、性別、年齢、障害、宗教、思想、
☆☆ ふところ具合、さまざまながいをこえて、いい事を楽しみながら実現
☆☆ する。 まるで非現実的な会が、実に自然に誕生しました。
☆☆ そんな気持ちにさせるほど業敵な1997年でした。
☆☆ うかれずに前に進みたいと思っております。 (事務局)
☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆